

ジャガイモ新品種

はりまる

煮崩れにも病害虫にも強く

神戸大学院農学研究所付属食資源教育研究センター（加西市）が、パレイシヨの新品種「はりまる」を開発し、試験栽培に取り組んでいる。「播磨地域の特産品」と名付け、6月に商標登録した。煮崩れしにくい上、病害虫に強く、減農薬栽培につながると期待される。（上野綾香）

神大5年かけ開発

関西地域に広く流通するよって、でんぷんが糖化し、

メーカーに勝る品種作り

甘みが増すという。

を目標して2007年にスタート。病気に弱く、緑化や変形しやすいメーカーの問題点を克服するため、食味がよく、複数の病害虫の抵抗性遺伝子を持つ長崎県育成のイモと、別の抵抗性遺伝子も備えるアメリカ産のイモを交配した。食味検定を繰り返して、約5年かけて完成させた。

収穫期はメーカーより1週間から10日遅く、病害虫にも強いのが特徴。減農薬栽培や有機栽培に適しているという。

また、でんぷん量は、今年収穫したもので、メーカーの1・4倍あり、煮崩れしにくい上、冷蔵貯蔵に

及を図るという。

石井尊生・センター長

は、「『はりまる』が、若い農家のチャレンジのきっかけになり、地域活性化につながれば」と期待している。



神戸大が開発したパレイシヨの新品種「はりまる」